

令和6年度学力調査実施事業の取組について

三次市立作木中学校

1 令和6年度三次市学力到達度検査結果分析及び指導改善計画

(1) 国語

学年	結果				【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から 見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年		自校	市	全国	○活用問題が 44.4%であり、わずかに全国(44.2%)を上回った。 ○基本的な漢字の読みや部首、ことわざの知識はいずれも目標値を超えている。 ○「国語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の問いに75.5%が肯定的である。 ●「言葉の特徴や使い方に関する事項」(特に小学校の既習漢字の書き及び文法)は全国比-12.5%である。(56.9%) ●「書くこと」において全国比-8であり(41.1%)、特に指定された長さ・段落数などの条件が守れておらず、正答率は25%であった。 ●分からない言葉は辞書を引く生徒が37%である。	・「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、既習の漢字や文法(特に単語の区切り方)について反復練習を継続し、知識の定着をはかる。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って文章を整えることは概ねできている結果が出たが、字数や段落数、指定語句などの複数の条件を守って書く練習を継続する。
	知・技	54.2	65.3	64.4		
	思・判・表	44.5	58.5	53.4		
	態度	45.0	59.3	49.1		
第2学年		自校	市	全国	○「主体的に学習に取り組む態度」は47.7であり全国を4.9上回った。 ○「国語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の問いに91.7%が肯定的である。 ○「書くこと」は49.5であり全国を1.2上回った。 ●「読むこと」において32.1であり、全国比-18.6であった。 ●「情報の扱い方に関する事項」において7.7であり、全国比-13.0であった。必要な情報を指定字数で書き抜く問の正答率が7.7である。 ●「書くこと」は全国を上回ったものの、「二文めに理由を書く」条件が守れていない。 ●「分からない言葉がある時は電子辞書を含む国語辞典を使いますか」の問いでは使わない生徒が75%いる。	・「読むこと」の文学的な文章において、心情表現や情景描写などを基に登場人物の心情を捉えたり、自分の意見の根拠となる部分を描写から探したりしながら読解力を鍛える取組を継続する。問いに合わせた答え方の練習も継続する。 ・自分の考えを書く練習を継続して行う。複数の情報を関連させ、指定された字数や文型などの条件を守って書く練習を繰り返す。また、相手に分かりやすい文や構成になっているか、条件は守れているかなど生徒同士で交流し深めさせる。
	知・技	55.8	59.4	59.4		
	思・判・表	45.2	59.0	52.3		
	態度	47.7	55.2	42.8		
全体	●1学年は特に「知識・技能」の基礎、両学年ともに「思考・判断・表現」が全国平均を下回っており課題が大きい。				○国語の学習が日常生活に役立つと感じる生徒が多い。 ●漢字や文法、文学的文章を読む力、書く力について十分な力がつけられていない。	・「知識・技能」について、漢字や文法など、定期的な復習を継続する。 ・辞書の使用を今以上に日常的に行わせる。得た語彙や言い回しなどの知識を使って自分の言葉で書いたり説明したりして表現させる。 ・「思考・判断・表現」については、文章の要約や条件に合わせた表現、自分の考えを交流できる場を引き続き設定する。

(2) 社会

学年	結果				【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から 見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年		自校	市	全国	<p>○歴史領域の数値が50.0（全国49.9）%であり、全国平均を上回った。</p> <p>○基礎の正答率が55.1（全国55.1）%であり、全国平均並みであった。</p> <p>●主体的に学習に取り組む態度の数値が35.9（全国40.0）%であり、全国平均を下回った。</p> <p>●「世界各地の人々の生活と環境」の正答率が46.9（全国55.7）%であり、全国平均を下回った。</p> <p>●「飛鳥時代～平安時代」に関する問いの正答率が全体的に全国平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の地的特色について、学習した内容と地図上の情報を関連付けて考えることができるように、地図帳等を活用し、理解を深める。 ・社会科の学習に主体的に取り組むことができるように、導入時の資料の提示を工夫をしたり、生徒自身が資料を基に課題解決ができるような学習の進め方を取り入れたりする等、授業改善を行う。 ・単元の振り返りや小テスト等で、単元ごとの生徒の理解度を確認する。
	知・技	53.3	57.6	54.8		
	思・判・表	44.3	46.3	44.6		
	態度	35.9	42.8	40.0		
第2学年		自校	市	全国	<p>○「社会の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じたことがありますか。」の問いに75.0（全国64.4）%が肯定的な回答だった。</p> <p>○「各地方の気候の特色についての理解をもとに判断している」に関する問いの正答率が69.4（目標値60.0）%であり、目標値を上回った。</p> <p>●「知・技」「思・判・表」「態度」の数値が全国平均を下回った。</p> <p>●地理・歴史ともに全国平均を下回っているが、特に歴史領域の正答率は27.7（全国42.5）%であり、全国平均を大きく下回った。</p> <p>●「江戸時代」に関する問いの正答率が6.5（目標値25.0）%であり、目標値を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の振り返りや小テスト等で、単元ごとの知識の定着を図る。 ・各時代の特色を、資料を用いて説明したり、表現したりする学習を通して、歴史の大きな流れを捉えさせる。 ・地理的な分野についても、繰り返し復習を行い、基礎的な知識の定着を図る。
	知・技	37.9	51.7	52.5		
	思・判・表	29.7	42.7	41.4		
	態度	26.6	41.2	41.3		
全体					<p>○1年生は基礎の正答率が全国平均並みである。</p> <p>●1年生は特に社会の学習に対する質問の肯定的評価が低い</p> <p>●2年生は「知・技」「思・判・表」「態度」全てにおいて全国平均を大きく下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の学習が生活とどのように結びついているのか、最近の社会の出来事と関連付けて提示することで気づかせる。 ・資料を読み取って、自ら解決する授業方法を工夫する。 ・学習の定着度を確認し、学習内容をふり返る時間を増やす。

(3) 数 学

学年	結果				【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から 見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年		自校	市	全国	<p>○「比例の式から、そのグラフ上にある点を選ぶ」問が全国平均を上回っている。(62.5%)</p> <p>○「対称移動する図形について、対応する点の位置を選ぶ」問が全国平均を上回っている。(87.5%)</p> <p>●「簡単な1次方程式を解く」問が全国平均を大きく下回っている(25.0%)</p> <p>●「比例式を解く」問が全国平均を大きく下回っている(25.0%)</p> <p>●「平行移動させた三角形について、正しいものを選ぶ」問が全国平均を大きく下回っている(25.0%)</p>	<p>・方程式を解く上での各段階の計算を確認し定着を図る。</p> <p>・方程式に変形して解く意味を抑える。</p> <p>・4種類の移動について移動について、タブレットドリル等で定着を図る。</p>
	知・技	45.0	61.6	60.1		
	思・判・表	32.8	44.5	44.1		
	態度	30.8	45.7	44.3		
第2学年		自校	市	全国	<p>○「分数を含む多項式の計算」の問が全国平均を上回っている(30.8%)</p> <p>○「2元1次方程式の解を座標とする点の全体を表したグラフを選ぶ」の問が全国平均を上回っている(46.2%)</p> <p>●「1次関数のグラフから、1次関数の変化の割合を求める」問が全国平均を大きく下回っている(38.5%)</p> <p>●「1次関数のグラフから、xの増加量に対するyの増加量を求める」問が全国平均を大きく下回っている(7.7%)</p> <p>●「1次関数の式から、グラフをかく」問が全国平均を大きく下回っている(38.5%)</p>	<p>全般的に正答率は低いが、特に関数について全国平均との差が大きい。</p> <p>・1次関数において、xとyの表の使い方を指導し定着を図る。</p> <p>・1次関数のグラフのかき方では、傾きをグラフのどう表すか指導をする。</p> <p>・タブレットドリル等を使い演習をさせる。</p>
	知・技	31.4	58.3	56.0		
	思・判・表	20.5	37.2	33.4		
	態度	20.2	37.0	33.1		
全体	<p>●1・2学年ともに、「知識・技能」「思・判・表」の量観点とも全国平均を大きく下回っており課題が大きい。</p>				<p>○1, 2年とも「数学の勉強は好き」が全国平均を大きく上回っている(87.5%, 75.0%)</p> <p>○1年:「問題を解けたとき別の解き方を考える」が全国平均を大きく上回っている(62.5%)</p> <p>○2年:「数学の時間に考え方を発表し合うことは好き」が全国平均を大きく上回っている(58.4%)</p> <p>●1, 2年とも方程式をはじめとする計算分野の学習内容が定着していない</p> <p>●2年:関数分野の基本事項が定着していない</p>	<p>・多くの生徒が「数学の勉強は好きである」という結果を大切にして、授業の導入の工夫や学習の中での成功体験を増やして、前向きに学習させていく。</p> <p>・その単元を学習したときから時期が離れるとできなくなるので、定期的にタブレットドリル等で復習をさせていく。また、学習の中で計算方法の意味や傾きの表し方の意味等も理解が深まるようワークシートを工夫していく。</p>

(4) 理 科

学年	結果				【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から 見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年		自校	市	全国	<p>○「理科の学習は好きですか」「実験や観察は好きですか」「理科の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の質問に対する肯定的評価が全国平均を上回った。</p> <p>○「思・判・表」の数値が41.1(全国40.0)%であり、全国平均を上回った。</p> <p>○「生命」の領域の数値が65.0(全国59.2)%であり、全国平均を上回った。</p> <p>●「知・技」の数値が48.4(全国52.4)%であり、全国平均を下回った。</p> <p>●「粒子」の領域の数値が35.9(全国41.5)%であり、全国平均を下回った。</p>	<p>・「知・技」の定着をはかるため、授業の導入部分で復習時間を設ける。</p> <p>・「粒子」の領域は、粒子の概念を理解できておらず、実際には見えないものを考えることに課題がある。そのため、ICTなどを積極的に活用し、視覚的支援を行う。</p>
	知・技	48.4	51.4	52.4		
	思・判・表	41.1	38.2	40.0		
	態度	33.3	40.0	40.2		
第2学年		自校	市	全国	<p>○理科に関する質問のすべてで肯定的評価の割合が全国平均を上回っている。</p> <p>○「化学変化と物質の質量」の数値が33.3(全国35.0)%であり、全国平均並みであった。</p> <p>●「知・技」「思・判・表」「態度」の数値が全国平均を下回った。特に、「思・判・表」の数値は全国平均の半分以下である。</p> <p>●すべての領域の数値が全国平均を下回った。特に「生命」の領域の数値は全国平均の半分以下である。</p>	<p>・「知・技」の定着をはかるため、授業の導入部分で復習時間を設ける。</p> <p>・「思・判・表」に大きく課題が見られる。授業で思考する時間を増やし、単元の終わりには自分の言葉で表現させる活動を設ける。</p>
	知・技	36.6	48.4	50.6		
	思・判・表	12.5	25.6	28.3		
	態度	18.1	30.5	32.8		
全体	<p>○1年生の「思・判・表」の数値が41.1(全国40.0)%であり、全国平均を上回った。</p> <p>●1,2年生ともにほとんど全国平均を下回っており、課題が大きい。</p>				<p>○理科の授業に関する質問の肯定的評価の割合が高い。</p> <p>●1年生は「知・技」に課題がある。</p> <p>●2年生は特に「思・判・表」に課題がある。</p>	<p>・1,2年生ともに、理科の授業について肯定的であるため、生徒の興味を惹くような導入や問いを考える。</p> <p>・観察・実験を積極的に行い、様々な事物や現象について、問題(課題)を見いだし、見通しをもった学習活動の場を設定する。</p>

(5) 英語

学年	結果				【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から 見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年		自校	市	全国	<p>○「絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している(日課)」の問いの正答率が全国平均を上回っている。(87.5%)</p> <p>○「スピーチを読み、その要点を捉えている」の問いの正答率が全国平均を上回っている。(87.5%)</p> <p>○「学校の廊下で、外国人講師の先生に英語で話しかけられたら、あなたは どうしますか」「英語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の質問に対する肯定的評価が全国平均を上回った。</p> <p>●「対話を聞き、その内容を理解して、適切に応答している(飼い犬をかわいいと言われて)」「スピーチを読み、その内容を理解している」の問いの正答率が全国平均を50ポイント以上、下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールトーク等での帯活動で、「聞く」「話す」活動の充実を図る。 ・教科書の本文等を使用し、内容を理解できているか、繰り返し確認する。 ・「書くこと」にも課題が見られるので、英作文の力をつけるために、「書く」活動は定期的に行う。
	知・技	42.2	59.2	65.8		
	思・判・表	28.3	45.3	47.2		
	態度	17.9	32.9	32.6		
第2学年		自校	市	全国	<p>○「絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している(時と動作)」の問いの正答率が全国平均を上回っている。(91.7%)</p> <p>○「英文を読み、概要を捉えて適切なスライドを選んでいる」の問いの正答率が全国平均を上回っている。(66.7%)</p> <p>○「学校の廊下で、外国人講師の先生に英語で話しかけられたら、あなたは どうしますか」「英語の勉強は好きですか」の質問に対する肯定的評価が全国平均を上回った。</p> <p>●「対話を読み、対話の流れと資料から、適切な内容を選んでいる」「文の語順を理解し、正確に書いている(副詞的用法の不定詞)」の問いの正答率が8.3ポイントだった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文等を使用し、内容を理解できているか、繰り返し確認する。 ・教科書の本文を繰り返し音読することで、重要表現等のフレーズをインプットさせる。 ・「書くこと」にも課題が見られるので、英作文の力をつけるために、「書く」活動は定期的に行う。
	知・技	44.3	54.0	62.3		
	思・判・表	35.4	41.4	41.9		
	態度	27.4	33.6	32.8		
全体					<p>○1・2年生ともに、ほとんどの生徒がALTの先生に何とか英語で会話しようとする態度が見られる。</p> <p>●1・2年生ともに、問いに対する正答率が、ほとんどの問いで全国平均を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの先生に協力していただき、部活動への参加等、授業外でも積極的に生徒と関わる時間を持ってもらい、生徒の英語学習に対する意欲をさらに高めていく。 ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動をバランスよく行う。

2 令和7年度全国学力・学習状況調査に向けた取組

(国語)

- ・「知識・技能」について、漢字や文法などの定期的な復習を継続する。また辞書の使用を今以上に日常的に行わせ、得た語彙や言い回しなどの知識を使って自分の言葉で書いたり説明したりして表現させる。
- ・「思考・判断・表現」については、文章の要約や条件に合わせた表現、自分の考えを交流できる場を引き続き設定する。

(数学)

- ・3月の残りの授業時間で1，2年の学習内容について、基礎基本の確認をしながら総復習をする。
- ・生徒の自己肯定感を高められるよう、生徒自身の考えを活かした指導に取り組む。

(理科)

- ・授業前に前時の復習時間を設け、知識の定着を促す。
- ・生徒が思考する活動を多く取り入れる。

(全体)

- ・ICTを利用し導入に工夫し、授業に取り組みやすいよう工夫する。
- ・タブレットドリルによる学習を促し、学習内容の定着を図る。
- ・授業の終わりに、授業内容の理解を確認する場を設ける。